

事務事業名	地域コミュニティ事業				担当	教育委員会 生涯学習課 生涯学習係			
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり				増補版施策名			
施策名	1	生涯学習の推進				☐ 実施計画上の主要事業			
関連個別計画					事業期間	☐ 単年度のみ			
法令根拠						☒ 単年度繰返（開始年度 昭和50 年度～）			
予算科目	1. 一般会計	10. 教育費	4. 社会教育費	3. 公民館費		☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）			
事業概要	地域住民のコミュニティの振興を目的とした、地域ぐるみで行う運動会や各種レクリエーション等の実施に対し、地域公民館単位の申請に基づき、1館につき年1回5,000円をコミュニティ活動奨励費として支給する。（盆踊りについては、申請があった場合、別に1回に限り支給する。） ～活動内容～ 運動会・夏祭り・どんど焼き・ソフトバレーボール大会・敬老会・そば会・レクリエーション大会等								

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 29年度実績 ・定期総会開催の際に交付申請書を配布し、申請があった地域公民館にコミュニティ活動奨励費（5,000円）を交付した。 30年度計画 28年度と同じ			⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
			名称		単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)
			ア	申請のあった地域公民館数	館	140	130	125	133	150
			イ	奨励費金額	千円	700	650	625	665	750
			ウ							
			エ							
			オ							
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 地域公民館			⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
			名称		単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)
			ア	地域公民館数	館	167	167	167	167	167
			イ							
			ウ							
			エ							
			オ							
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 地域公民館の活動を活性化させる。			⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
			名称		単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)
			ア	申請のあった公民館数	館	140	130	125	133	150
			イ							
			ウ							
			エ							
			オ							
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 地域の連帯感と仲間づくりを図る。			⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
			名称		単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)
			ア	地域公民館活動が活性化された公民館の割合	%	83.8	77.8	74.9	79.6	89.8
			イ							
			ウ							
			エ							
			オ							
(2) 総事業費の推移										
投入量	事業費	財源内訳	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)		
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0		
		県支出金	千円	0	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0	0		
		一般財源	千円	700	650	625	665	750		
	事業費計（A）		千円	700	650	625	665	750		
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1		
		延べ業務時間	時間	33	33	33	33	33		
		人件費計（B）	千円	139	138	137	137	137		
トータルコスト(A)+(B)		千円	839	788	762	802	887			
(3) 事務事業の環境変化・市民意見等										
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか。		地域公民館で行っているコミュニティ事業の活性化を図ることで昭和50年より開始した。								
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？		・毎年多くの申請があり、各地域公民館が実施するコミュニティ事業に活用されている。 ・今後も各地域公民館の活性化のためには、必要とされる制度である。								
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？										

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	☒ 結びついている ☐ 見直し余地がある 地域公民館の事業の活性化を図る目的で実施しており、交付を受けたことにより事業実施への励みとなり、市全体の活性化につながっていく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	☒ 妥当である ☐ 見直し余地がある 地域住民のコミュニティ振興のため必要である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	☒ 適切である ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある 167の地域公民館全体を対象としており、また地域公民館活動の事業を考えれば、適切な意図のもと行われている。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地はない ☒ 向上余地がある 申請のない地域公民館へ事業内容の周知に努める。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☒ 影響がある ☐ 影響がない 地域活動の一部として寄与している。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	☐ 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） ☒ 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	☐ 他の事業と統合・連携ができる ☐ 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ （仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 地域公民館のコミュニティ事業の推進にあたっての最小限の経費である。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか （アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 事務処理に要する最小限の経費である。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	☒ 公正・公平である ☐ 見直し余地がある 申請のあった公民館には全て交付しているので公平である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☒ 見直し（ ☐ ：目的妥当性 ☒ ：有効性 ☐ ：効率性 ☐ ：公平性） ☐ 統合 ☐ 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？ 未申告の公民館への周知																								

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足（説明責任不充分） ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
			コスト																						
			削減	維持	増加																				
成果	向上		○																						
	維持																								
	低下																								
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																									
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☒ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																								